

放送教育だより 第56号

全通研 放送教育研究委員会 令和2年1月31日発行

◆地区通研より

○東北・北海道地区

期日：令和元年10月24日(木)・25日(金)

会場：郡山商工会議所（福島県郡山市）

発表者：北海道芸術高等学校 校長：桧物 聖先生 テーマ：放送教育の有効活用について

北海道芸術高等学校は、2019年度から放送視聴による減免を利用しないことにしたそうである。そのために、生徒の視聴科目調査について、2018年度からの研究を2019年度と比較することが困難となってしまい、家庭での放送視聴で効果的な学習法を模索する研究発表となった。北海道芸術高等学校は全国6カ所のキャンパス、8つのコースで教育を展開しており、地域性やコースの特性などから、視聴したい教科目や学習方法などの特徴・傾向が見られるかを調査研究している。声優コースは国語に興味を持つ生徒が多く、言語表現について関心が高い傾向がある。ファッションビューティーコース・美容師コースは、情報や商業科目に興味を持つ生徒が多い。などが調査結果としてわかったようである。そこから、このコースの生徒を伸ばすためにはどんな学習を取り入れたら良いかを考えるヒントが得られるのではないかと感じた。

また、自宅学習で放送視聴を促進するために、定期試験前に高校講座のQRコードを生徒に配布し、特に苦手意識の高い理数系科目（数学I・生物基礎・地学基礎）の試験勉強の一助とする試みをした。高校講座の利用は少数（全体の7%）ではあったが、視聴効果は十分あったようである。生徒に視聴しない理由を問うと、「見るのに時間がかかる。」と答えた生徒が32%いたそうだが、チャプターごとの映像を実際見れば、ピンポイントで見られることに気づくのではないかと述べられている。

（助言として）芸術高校はガイドラインの指摘から視聴票による面接時間減免を利用しないこととしたが、視聴票による減免は、通信教育における教育課程の特例であり、「多様なメディアを利用して行う学習は、計画的、継続的に取り入れるべき・・・」の解釈は、各校の状況や生徒の実態等を踏まえて免除できる教育的措置であり、学習効果も期待できると思われる。ガイドラインの解釈の「温度差」を感じた。来年の発表に向けて、さらにデータを集め、放送教育の可能性を実証していただければと思う。

（文責：放送教育研究委員 吉田 健）



おんびちゃん



がくとくん

○関東地区

期日：令和元年9月20日(金)

会場：前橋テルサ

1 発表者 神奈川県立横浜修悠館高等学校 桑島 隼先生

テーマ「次世代の学習ニーズをふまえた指導の充実 ～ICTを利用した多彩な学習指導・体制の構築～」

横浜修悠館高等学校は、生徒数1,988名、学級数32学級と公立通信制高等学校としては大規模な学校である。

生徒の年齢幅も広く、また様々な困難を抱えた生徒が在籍している。様々な背景のある生徒の多彩な学習ニーズに応えるため、現在設置している月曜から木曜まで通学して学習する「平日講座」、毎週日曜日に講座

が設定されている「日曜講座」、基本は日曜講座と同様だが、インターネットを利用してレポート提出ができ、「動画コンテンツ」と呼ばれる動画を利用して学習を進めることができる「IT 講座」の3つの学習形態の充実を図るべく、平成30年度から文部科学省研究事業「高等学校における次世代の学習ニーズをふまえた指導の充実事業」の一環としてICTを活用した幅広い学びの体制を構築することについて研究を行っている。

研究内容は、開講当初から設置しているeラーニングシステムである「IT 講座」などICTを活用した学習指導の充実をすべく平成30年4月より大学等で多く採用されているオープンソースのeラーニングプラットフォームをベースに構築された「横浜修悠館マイページ」を稼働させることにより、多彩な学習指導の検討が可能となり、その仕組みを利用し「動画コンテンツ」の配信、「IT レポート」の改善、「Classi」の導入を行い様々な生徒の学習ニーズへ対応しているという報告であった。



2 講評及び講演 東京工業大学 教育革新センター 特任助教：長濱 澄先生

東京工業大学教育革新センター特任助教の長濱 澄先生にリーダーシップをとっていただき ICT を利用した授業の実施に有効なコンテンツについて、グループ討議を中心とする内容で実施された。大変充実した時間であった。

(文責：放送教育研究委員 渡邊 智恵)

○中部地区

期日 令和元年9月19日(木)・20日(金) 会場：アオッサ 福井市地域交流プラザ

<発表>

①「本校における放送教育の取り組みについて」福井県立道守高等学校 野村 厚子先生

生徒の自立した学習活動の構築を図って6年前に実践報告を行った「放送教育利用の啓発・広報活動、放送教育番組の利用拡大」を更に推し進めるため、(1)「放送視聴ガイダンス授業」およびアンケート調査の継続実施 (2)教科指導におけるNHKアーカイブスやNHK for School アプリを用いた番組活用の実施といった取り組みが紹介された。ともに生徒にとって「やればできそうだな」「やりがいがありそうだな」と動機づけを高める効果が強く感じられた。スクールプランとして学校全体で取り組んでいる様子が印象的な報告であった。



②「高校講座の番組を利用したスクーリング指導について」三重県立北星高等学校 久保田 肇先生

ストーリー配信されているNHK高校講座「ベーシック数学」をスクーリング内で部分的に視聴させ、教材プリントを併用しながら教科学習指導を行ってきたことと、それに纏わるアンケート調査の結果考察が紹介された。番組を上手に調理しスクーリングに盛り付けることで、生徒が「わかった、できた」という体験を積み重ねている様子が見受けられ、自学自習への広がりも期待できる報告であった。

<講話>

「NHK高校講座の効果的な活用事例について」NHKエデュケーショナル教育部 専任部長：足立 圭介

・NHK高校講座は各番組をチャプターで区切っているため、必要な部分だけ抜き取って利用することも手であること
・自学自習での活用においてはNHK高校講座ホームページが有用なので、学期の始めにぜひ

ひ案内してみても、ホームページには先生方に向けても「活用例」を掲載していて少しずつ増やしているので参考にされてみては（ <https://www.nhk.or.jp/kokokoza/katsuyo/> ） といったことが紹介された。2020年度の新番組制作に向けて、現場の先生方の課題、要望、意見をぜひNHKに寄せてほしいとのことであった。

研究協議では、主に各県のインフラ事情や学校毎の指導体制等について意見交換が為された。通信制課程の生徒が自学自習を進めるうえで、放送教育番組をどのように活用していけばよいか深く考えるきっかけとなるとても有意義な分科会であった。

（文責：放送教育研究委員 森山 了一）

○近畿地区

期日：令和元年9月20日（金）

会場：ピアザ淡海

発表者：向陽台高等学校 久保田 至先生

テーマ：放送教育への取り組み

今年度の近畿地区通研は滋賀県の琵琶湖の畔で行われ、「放送教育分科会」では、向陽台高等学校より「放送教育への取り組み」というテーマで発表があった。

向陽台高等学校は昭和39年に大阪繊維工業高等学校通信制課程として認可され、昭和42年に向陽台高等学校と校名変更された学校である。

受講システムは5期制で、幾つかの登校型のコースに分かれており、自宅学習コースを中心に放送教育を取り入れていて、主にスクーリング時数の軽減のために使用しているとのことで、視聴のために「メディア視聴報告書」が教科毎に作成され、様式も教科に任されているとのこと。

今回の発表のためにメディア教材を利用した学習効果をまとめられ、様々なメリットやデメリットが見えてきたと発表されていた。メリットとしては、時間に余裕ができるので、大学進学のための学習時間に充てたり、スポーツや芸能の活動を行ったりすることができる、災害などでカリキュラムに変更が生じた場合に対応が容易とのこと。デメリットとしては、学習効果が上がっているかどうかの心配や、単位修得が楽になるイメージを持たれてしまう懸念があることなどが上げられていた。

その後、討議が行われたが、放送教育をこれから取り入れる学校も多く、どのような視聴レポートにしたら良いかなど話し合いが活発に行われた。最後に、放送教育だけでなく、どのようにICT教育を取り入れて行くかという話し合いがあった。

（文責：放送教育研究委員 松本 一則）



○中国地区

期日：令和元年10月15日（火）・16日（水）

会場：ホテル広島ガーデンパレス

<協議内容>事前アンケートをもとに各校から報告があり、協議を行った。

- ① 面接指導時数を軽減するために放送教育を利用する場合の視聴範囲
- ② NHK高校講座の活用例、視聴報告書の項目、「総合的な探究の時間」利用
- ③ スクーリングにおけるインターネット・動画の視聴状況、タブレット等のICT活用例



④ 学校独自の動画教材作成状況及び配信手段

＜グループ討議＞3つのグループに分かれて以下の討議を行い、結論を全体で共有した。

- ① NHK高校講座（放送教育）を生徒に活用させるために、どのようなアプローチが有効か。
- ② 自校で実際にアプローチする際に、どのような障壁が考えられるか。その解決策は何か。

グループ討議では、LHRやオリエンテーション、スクーリング時の「生徒周知」、レポートや学習計画表へのQRコード掲載、生徒からの質問にリンクを貼って回答、試験対策プリントで活用するという「具体的な学習補助活用」、そして、通信制着任初年度の教員に対する説明や、定期的な校内研修、全通研大会や地区通研大会で得られる情報を始めとした先進的な取り組みの共有といった「教員の意識向上」など、すぐにでも取り掛かれる魅力的なアイデアが数多く出された。

通信制課程生徒が自学自習を進めるための強力な助っ人として、NHK高校講座の具体的な活用方法について検討を深める有意義な機会とすることができた。

（文責：放送教育研究委員 山口 瞳）



○四国地区

期日：令和元年7月4日(木)

会場：高知会館

発表者：日本ウェルネス高等学校 教頭：大久保 成道先生

テーマ：NHK高校講座を活用した基礎学力の養成について



四国地区通研は高知県を会場に、2日間行われる四国地区定時制通信制教育研究協議大会の中で行われ、放送教育の発表は1日目の通信制部会の中で行われた。

発表校の日本ウェルネス高等学校は愛媛県に本校があり、全国12施設を持つ広域の通信制高校だが、NHK高校講座の活用を、全施設に紹介しつつも統一で実施することは難しく、今回は名古屋キャンパスでの取り組みを報告していただいた。

日本ウェルネス高等学校はメディア利用による面接指導時間の減免は行っていないことから、NHK高校講座の視聴を面接指導の中に取り入れていた。視聴の流れとしては

学習内容説明～高校講座視聴～学習のまとめ～授業のまとめ

を50分の中で行っていた。

放送を視聴することで添削課題作成が容易になるように指導し、生徒への視聴の動機付けを行っていて、番組内容と添削課題の関連が分かることで、視聴学習にも身が入るようである。さらに放送にある「学習メモ」を行わせることで、理解度も深まっているようだ。

取り組みは4年間行われ、高校講座への関心が高まることで学習内容の理解が進み、添削課題の作成も容易になり、添削課題の正答率も向上していたようである。

発表後の話し合いでも活発な意見が飛び交い、特にNHK高校講座の利用により学習効果が上がったことが数値で示されていたことに関心が集まり、各学校での今後の活用を期待させるものとなった。

（文責：放送教育研究委員 松本 一則）